

## 第5講 空間ベクトル

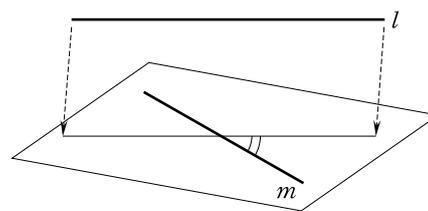
### 1 平面，直線の位置関係

#### A 空間の2直線のなす角

空間における異なる2直線  $l, m$  について， $l, m$  のなす角を考える．

まず， $l \parallel m$  のときは，2直線のなす角を  $0^\circ$  と定める． $l$  と  $m$  が平行でなく，かつ交わらないとき， $l$  と  $m$  はねじれの位置にあるという．

ねじれの位置にある2直線に関しては，図のようにいずれかの直線を平行移動して，交わるようにしてからなす角を考えればよい．



(注) 2直線のなす角  $\theta$  は通常  $0^\circ \leq \theta \leq 90^\circ$  の範囲で考える．

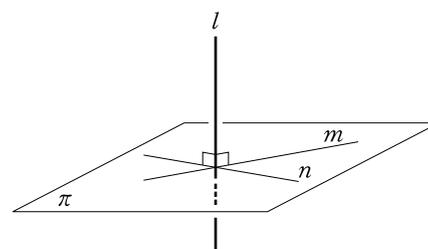
2直線  $l, m$  のなす角が  $90^\circ$  のとき， $l$  と  $m$  は垂直であるといい， $l \perp m$  とかく．特に，垂直な2直線が交点をもつとき，2直線は直交するという．

#### B 直線と平面の垂直

平面  $\pi$  上のすべての直線と直線  $l$  が垂直であるとき，直線  $l$  と平面  $\pi$  は垂直であるといい， $l \perp \pi$  とかく．

このとき， $l$  と  $\pi$  は直交するといい，さらに， $l$  は  $\pi$  の垂線であるという．

直線  $l$  と平面  $\pi$  が垂直になるためには，平面  $\pi$  上の交わる2直線  $m, n$  について， $l \perp m$ ，かつ  $l \perp n$  が成り立てばよい．



平面  $\pi$  上の交わる2直線がいずれも  $l$  と垂直であるとき，直線  $l$  と平面  $\pi$  は垂直である．

## 2 空間ベクトル

### A 空間におけるベクトルの分解

空間の4点  $O, A, B, C$  が四面体の4頂点となる時、3つのベクトル  $\overrightarrow{OA}, \overrightarrow{OB}, \overrightarrow{OC}$  は1次独立であるという。

空間において、3つのベクトル  $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$  が1次独立であるとき、任意のベクトル  $\vec{x}$  は、

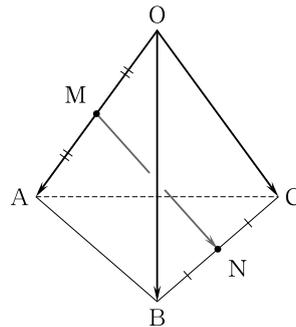
$$\vec{x} = r\vec{a} + s\vec{b} + t\vec{c} \quad (r, s, t \text{ は実数})$$

の形で表すことができる。しかもその表し方はただ1通りである。

**例1** 四面体  $OABC$  において、辺  $OA$  の中点を  $M$ 、辺  $BC$  の中点を  $N$  とすると、

$$\begin{aligned}\overrightarrow{MN} &= \overrightarrow{ON} - \overrightarrow{OM} \\ &= \frac{1}{2}(\overrightarrow{OB} + \overrightarrow{OC}) - \frac{1}{2}\overrightarrow{OA} \\ &= -\frac{1}{2}\overrightarrow{OA} + \frac{1}{2}\overrightarrow{OB} + \frac{1}{2}\overrightarrow{OC}\end{aligned}$$

と1次独立なベクトル  $\overrightarrow{OA}, \overrightarrow{OB}, \overrightarrow{OC}$  を用いて表すことができる。



**問1** 四面体  $OABC$  において、辺  $AB$  を1:2に内分する点を  $D$ 、辺  $OC$  の中点を  $E$  としたとき、 $\overrightarrow{DE}$  を  $\overrightarrow{OA}, \overrightarrow{OB}, \overrightarrow{OC}$  を用いて表せ。

### B 平面上の点の表し方

同一直線上にない3点  $A, B, C$  を含む平面  $ABC$  上に点  $P$  があるとき、

$$\overrightarrow{AP} = s\overrightarrow{AB} + t\overrightarrow{AC} \quad (s, t \text{ は実数})$$

と表すことができる。  $\overrightarrow{AP} = \overrightarrow{OP} - \overrightarrow{OA}$ ,  $\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{OB} - \overrightarrow{OA}$ ,  $\overrightarrow{AC} = \overrightarrow{OC} - \overrightarrow{OA}$  より、

$$\overrightarrow{OP} = (1-s-t)\overrightarrow{OA} + s\overrightarrow{OB} + t\overrightarrow{OC} \quad (s, t \text{ は実数})$$

と変形できる。さらに、 $r = 1-s-t$  とおくと、

$$\overrightarrow{OP} = r\overrightarrow{OA} + s\overrightarrow{OB} + t\overrightarrow{OC} \quad (r, s, t \text{ は実数}, r+s+t=1)$$

となる。以上をまとめると、

5・3 四面体 OABC があり,

$$OA = OC = 1, OB = 2, \angle AOB = 90^\circ, \angle BOC = \angle COA = 60^\circ$$

を満たしている.

- (1) 平面 OAB に関して点 C と対称な点を D とするとき,  $\overrightarrow{OD}$  を  $\overrightarrow{OA}$ ,  $\overrightarrow{OB}$ ,  $\overrightarrow{OC}$  を用いて表せ.
- (2) 線分 BC の中点を M とする. 平面 OAB 上を点 P が動くとき, 線分の長さの和  $CP + PM$  の最小値を求めよ.

5・4 1辺の長さが2である正四面体OABCがある。

(1)  $\overrightarrow{OA} \perp \overrightarrow{BC}$ であることを示せ。

(2) 辺OA上に点Pを，辺BC上に点Qをとり，線分PQの中点をMとする。

点Pが辺OA上を，点Qが辺BC上をくまなく動くとき，点Mはある平面上を動く．点Mの動き得る範囲の面積を求めよ。